

奥直子 (おく・なおこ)

〈制作コメント〉

“モノでありながら空洞である。”

やきものそういうところが面白いと思っています。そして内と外、裏表、その他相反する様々を総合しながら成り立っているモノゴトの在り様を、やきものというやつは視覚的に体现している様に感じます。

そんなことを思いながら、私は“用途の無い”エンターテインメントとしてのやきものをつくっています。



陶歴

1988年 東京都に生まれる
2012年 多摩美術大学工芸学科卒業
2014年 常滑陶芸研究所修了
2015年 個展「生物博覧会」(FUMA Contemporary Tokyo)
2016年 個展「inside」(ギャラリー素庵・奈良屋/愛知)
2017年 個展「TRANSFORMATION」(ギャラリーcera/愛知)
2018年 二人展「ショートストーリーズ」(ヴァリエテ本六/東京)
2019年 SICF20 準グランプリ
個展「SPARK」(ギャラリーcera/愛知)
2020年 SICF20 Winners Exhibition (スパイラル/東京)
「Shower」(芸術銭湯+Café 宮の湯/東京)
2022年 「やきもの現代考「内と外」」(愛知県陶磁美術館)
「ホモ・ファアベルの断片—一人ものづくりの未来—」(愛知県陶磁美術館)
個展「地獄の沙汰も土次第」(ギャラリーcera/愛知)
2023年 個展「INNER VISIONS」(YTF GALLERY/台湾)
現在 神奈川県小田原市在住

佐合道子 (さごう・みちこ)

〈制作コメント〉

私にとって「いきもの」とは、変化あるあらゆるものを指します。いずれの作品からも「いきものらしさ」を感じ取ることができるものを作ることが制作の基本となるテーマです。磁土という素材の性質を最大限に活かし、さまざまな手わざから生まれる造形の魅力を感じていただけたらと思います。



陶歴

1984年 三重県に生まれる
2009年 「現代工芸への視点—装飾の力」(東京国立近代美術館工芸館)
2011年 金沢美術工芸大学修士課程修了
2012年 「ALFAROMEO I AM GIULIETTA THE DRIVE ART」プロジェクト参加
2014年 「現代・陶芸現象」(茨城県陶芸美術館)
2015年 「Nature Creations-Flowers-」(スパイラル/東京)
2016年 「焼締—土の変容」(国際交流基金主催海外巡回展) (～現在)
「現代陶芸・案内」(茨城県陶芸美術館)
2018年 石川県九谷焼技術研究所実習科加飾専攻修了
陶磁器製造技能士(上絵付け作業) 1級取得
2019年 金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科博士後期課程修了
2020年 「和巧絶佳展 令和の超工芸」(バナソニック汐留美術館/東京、他巡回)
2021年 「工芸オブジェ NEXT GENERATION展」(日本橋三越本店/東京)
2022年 「GO FOR KOGEI 2022」(那谷寺/石川)
「ACTIVATET KOGEI+ART GINZA2022」(松屋銀座/東京)
現在 石川県金沢市在住

川瀬理央 (かわせ・りお)

〈制作コメント〉

樹木をモチーフに器型作品を制作しています。樹木には幹のうねりや枝ぶりに、器には作り手、使手の重ねた時間が刻まれています。「今」に至るまでの過程に魅力を感じて形にしています。



陶歴

1990年 大阪府に生まれる
2012年 上賀茂神社アートプロジェクト フランス総領事賞
「わん・碗・ONE展」(京都陶磁器会館)
2014年 京都精華大学芸術学部素材表現学科陶芸コース卒業
個展「Flash Point」(spectrum gallery/大阪)
2015年 京畿世界陶磁ビエンナーレ(利川世界陶磁センター/韓国)
2017年 個展「ギャラリー白3/大阪」
第11回国際陶磁器展美濃(セラミックパークMINO/岐阜)
2019年 個展「川瀬理央 陶展—刻—」(京都陶磁器会館)
個展「建築士事務所 民家×陶芸家 川瀬理央 完成見学会&陶芸展」(根っこやさんの家/大阪)
第29回日工会展
2019金沢・世界コンペティション(金沢21世紀美術館/石川)
第8回菊池ビエンナーレ(菊池寛実記念 智美術館/東京)
2020年 京都花鳥館賞奨学金2020 最優秀賞
現在 静岡県田方郡在住

高山大 (たかやま・だい)

〈制作コメント〉

私は寺院に生まれ育ちました。近年、自分のルーツと陶芸家としての関わりを模索しながら作品を制作しています。今展では、黒陶に拭き漆を施した経画や経筒など、私なりに仏教美術を捉え表現しました。



陶歴

1972年 三重県に生まれる
1996年 近藤高弘に師事(～2001)
2002年 タンザニアに1ヵ月滞在して土器づくりを学ぶ
2010年 個展(山画廊/三重)(同'14'16'19'22)
2011年 「東海現代陶芸 思考する新世代展」(愛知県陶磁美術館)
2012年 個展(堤側庵ギャラリー/三重)(同'20)
2014年 個展(日本橋高島屋/東京)(同'16'18'21)
2015年 「東海・甲信越のうつわ展」(伊丹市立工芸センター/兵庫)
個展(現代美術舂居/京都)
2017年 「URNEN」(離州陶磁セサン/韓国、EKWC/オランダ)
2018年 個展(アートサロン光玄/愛知)
2019年 真宗高田派光泉寺住職継承
個展(伊勢現代美術館/三重)
2021年 個展(パラミタミュージアム/三重)
現在 三重県津市在住

酒井智也 (さかい・ともや)

〈制作コメント〉

自己の記憶、他者の記憶、時代の記憶などをテーマに、いくつかのシリーズを発表してきた。共通するのは、記憶と共にある「想い」を粘土とロクロ技法を通して、抽象的なイメージとして具現化すること。それらの作品は、無意識下に消え去った重要な記憶を呼び覚ます。そして、固定化されていないイメージを通して物事の本質を見つめ直す。



陶歴

1989年 愛知県に生まれる
2015年 名古屋芸術大学陶芸コース卒業
2019年 多治見市陶磁器意匠研究所修了
2020年 個展「Ceramics Solo Exhibition 〇」(芥末Art & Craft Gallery/中国)
台湾国際陶磁ビエンナーレ(新北市立鶯歌陶窑博物館/台湾)
2021年 個展「Tomoya Sakai Exhibition」(Trophée Macocotte/フランス)
個展「リビングの未確認生命体」(銀座 蔦屋書店/東京)
第9回菊池ビエンナーレ(菊池寛実記念 智美術館/東京)
京畿世界陶磁ビエンナーレ(利川京畿陶磁美術館/韓国)
第12回国際陶磁器展美濃 銀賞
2022年 個展「ReCollection」(スパイラル/東京)
個展「Connection」(roid works gallery/東京)
ART TAIPEI 2022(Taipei World Trade Center/台湾)
「ホモ・ファアベルの断片—一人ものづくりの未来—」(愛知県陶磁美術館)
2023年 「The Postmodern Child」(釜山現代美術館/韓国)
現在 愛知県瀬戸市在住

戸田浩二 (とだ・こうじ)

〈制作コメント〉

原土から水簸した土を轆轤成形、無釉で薪窯焼成する。緊張感のあるかたちが、炎の力でほんの少しだけ優しくなる。真と行の間。静謐な祈りの空間を。どうぞ、中央の黒いイスにお座りください。



陶歴

1974年 愛媛県に生まれる
1996年 筑波大学体育専門学群卒業
1988年 伊藤東彦に師事(～2002)
2002年 茨城県笠間市に新窯を築く
2010年 個展(祥雲/東京)(同'12'15'19'21)
2011年 アートフェア東京(東京国際フォーラム)(同'13'17)
2012年 東美アートフェア(東京美術倶楽部)(同'14'15'19)
「GEMSTONE—笠間の4人」(茨城県陶芸美術館)
2013年 「ASIA WEEK NEW YORK」(MIKA GALLERY/アメリカ)(～'19)
2016年 ドイトウンプロジェクト(メイファールアン財団/タイ)(同'17)
2017年 個展(MIKA GALLERY/アメリカ)
個展「戸田浩二展—聖水—Holy Water」(LIXILギャラリー/東京)
2019年 「土と抽象 記憶が形に生まれるとき」(益子陶芸美術館/栃木)
2022年 「The Fourth Dimension うつわの未来へ」(益子陶芸美術館/栃木)
「白と黒—光と影」(日本橋高島屋/東京、他)
現在 茨城県笠間市在住